

## 鈴木幸壽先生の退職にあたって

堤 史 朗

明星大学人文学部社会学科教授・鈴木幸壽先生は、1996年3月末日をもって、本学を退任されることになった。

本学教授として着任された1986年4月以降、その大半を学科主任教授として過ごされた10年間、先生には社会学科の研究・教育体制のみならず、大学の民主化、正常化へむけての動きにも主導性を遺憾なく発揮され、大学全体の雰囲気を変化させることに大いに貢献していただいた。それは、社会学者としての鈴木先生が学問の実践性を身をもって示された具体的現実として確認されるものである。

社会学者として過ごされた50年間、鈴木先生の研究、評論活動は多岐にわたっている。その中心は、「ドイツ社会学」を主軸とする社会学史、社会学説史研究であり、そして「権力」論（理論、学説、実証）を巡る政治社会学の研究である、と見るのが鈴木先生に対する日本社会学界での一般的認識であるだろう。

鈴木先生の研究活動は社会学史と政治社会学を二本の柱とし、その間を架橋するキー・ワードとして「ファシズム（ナチズム）」への問題関心を強く持ち続けられた50年間ではなかったか、との私の個人的印象からする推測はあまりにも穿った見方に過ぎるだろうか（…鈴木先生から、個人的誤解に基づくものと叱責されるかもしれないが…）。1940年代半頃の時代的狀況は、ドイツと日本のかつての権力がそれぞれ自己自己目的化した結果、非民主的統合化として暴力

的にファシズムを招来させたとする歴史的経験への検証が要請され、そこに鈴木先生の社会的関心はその起点を有するのではないかとの印象をもつのである。

鈴木先生の「権力」論は、民主的統合化を可能とする手だて＝「手段としての権力」が、大衆政治のレベルでの“参加”と“コンセンサス”（“自発性”と“討論”）を基礎的条件とする限りにおいてその正当性を主張することができるものとして展開されている点に注意を促されるのである。

<官僚主義><過度の秘密主義><権力の寡頭化><権力の自己目的化>など、権力の集中による病理現象が深く浸透した明星大学で、「その病理現象の根因を排除することに精力を費や」（鈴木幸壽「権力と社会」、鈴木幸壽編『権力と社会』所収、1983年刊）されたのが鈴木先生の10年間であった。こうした状況のなかで鈴木先生には、「社会現象としての権力論は、ある意味で底辺部の問題から出発して、その展開をしなければならない」（同上）との確信から、社会学科内の民主的統合化を大学全体へと発言、行動されることで、大学の民主化、正常化の動きにとって大いなる励ましとなり、精神的支柱ともなっていた。

鈴木先生の「学問としての社会学」の実践性を具体的に経験する機会を共有したわれわれは、その学問的支柱を最終講義「社会学50年と私—社会学研究史を柱に一」のなかに確認させ

ていただくと同時に、先生によって道が拓かれ、種を蒔いていただいた大学の民主化、正常化の具体的成果を早期に獲得し、ご報告することをお約束して、社会学科としてのお別れの挨拶とさせていただきます。

鈴木幸壽先生には、ご退任後もいましばらくは他大学で後進の指導に当たられる由、今後のご健康とご活躍を祈念しつつ、これまで以上のご好誼をお願いする次第です。

(つつみ しろ、本学科教授)

## 鈴木幸壽教授略歴

- 1943 (昭和18) 年9月 東京外国語学校 (現 東京外国語大学) 独語部貿易科卒業  
 10月 東北帝国大学法文学部哲学科社会学専攻入学  
 12月 学徒動員令により横須賀第二海兵団入隊 (海軍兵科予備学生・海軍少尉・海軍中尉)
- 1945 (昭和20) 年8月 終戦により復員  
 9月 東北帝国大学に復学
- 1947 (昭和22) 年3月 同上 卒業  
 4月 東北大学大学院入学  
 9月 同上 退学  
 10月 東北大学大学院第一期特別研究生
- 1949 (昭和24) 年9月 同上 修了
- 1950 (昭和25) 年3月 東京外国語大学 講師
- 1956 (昭和31) 年4月 同大学 助教授
- 1965 (昭和40) 年10月～1966 (昭和41) 年9月  
 文部省在外研究員として西独ケルン大学に留学
- 1966 (昭和41) 年4月 同大学 教授
- 1975 (昭和50) 年4月～1981 (昭和56) 年8月  
 同大学 学生部長、評議員、大学院担当
- 1981 (昭和56) 年9月 同大学 学長事務取扱  
 12月 同大学 学長
- 1985 (昭和60) 年11月 同大学 退官
- 1986 (昭和61) 年1月 東京外国語大学 名誉教授
- 1986 (昭和61) 年4月 明星大学人文学部 教授
- 1996 (平成8) 年4月 和洋女子大学、同短大 学長
- 非常勤講師歴 日本大学文理学部 東京経済大学 上智大学文学部 国際基督教大学 千葉大学 東北大学文学部 明治学院大学 東京教育大学 中央大学 など

公職（学会等）  
 日本社会学会理事、監事  
 日本社会学会史学会理事、名誉会員（現）  
 日本学術会議、会員推薦管理会委員、幹事  
 国際教育協会理事  
 関東社会学会会長  
 国際学友会理事  
 ISA会員（現）  
 東京外国語大学同窓会会長（現）

## 鈴木幸壽教授著作目録

著書・論文名	発表年月	発表誌名・発行所等
〔著書・編書〕		
『T・ガイガー』	1959（昭和34）年9月	有斐閣
『社会学』	1968（昭和43）年4月	誠信書房
『現代社会と政治』	1971（昭和46）年1月	誠信書房
『社会学史』（編著）	1974（昭和49）年1月	学文社
『社会学用語事典』（編著）	6月	学文社
『権力と社会』（編著）	1983（昭和58）年6月	誠信書房
『改訂 社会学用語事典』（編著）	1992（平成4）年6月	学文社
『新版 社会学史』（編著）	1995（平成7）年5月	学文社
〔翻訳書〕		
T・ガイガー『知識階級』	1953（昭和28）年7月	玄海出版社
R・バスタード『ラテン・アメリカ社会学』	1954（昭和29）年3月	『二十世紀の社会学』誠信書房
D・リースマン『孤独なる群衆』（共訳）	1955（昭和30）年3月	みすず書房
R・ケーニッヒ『現代の社会学』（共訳）	1957（昭和32）年4月	誠信書房
T・ガイガー『新しい階級社会』	10月	誠信書房
『政治権力』（編訳書）	1961（昭和36）年7月	誠信書房
S・ブラウン『新中間層』（共訳）	1968（昭和43）年6月	誠信書房
S・M・リフセット『政治社会学』	1969（昭和44）年7月	パーソンズ編『現代のアメリカ社会学』誠信書房
〔論文〕		
輿論におけるテンニエスの学説体系 —『輿論批判』を廻る—考察—	1947（昭和22）年3月	卒業論文

宮城県の農家労働力	1948 (昭和23) 年 9 月	宮城県総務部調査課
形式社会学の再検討	1949 (昭和24) 年 2 月	大学院特別研究生研究報告
新明正道編著『社会学小辞典』項目執筆	1950 (昭和25) 年 2 月	岩崎書店
関係学の一考察	7 月	『社会学研究』第 1 号
社会意識と個人意識	1951 (昭和26) 年 4 月	『社会学研究』第 3 号
ドイツ社会学の現代的課題	11 月	『東外大紀要』 <i>Area and Culture Studies</i> 第 1 号
圧力集団としての大衆	1953 (昭和28) 年 3 月	『社会学評論』11号
現代と知識社会学	6 月	『理想』241号
社会におけるインテリゲンチヤの使命と立場	9 月	『社会学評論』12号
イデオロギー論 各論	9 月	『社会学の基礎』日本書院
政治心理学論考	9 月	『耕文』(東外大助手会論文集)第 3 号
「クロスマン」「リースマン」「リップマン」	1956 (昭和31) 年 5 月	『理想』(春季特集「明日に生きる思想家」)
テンニエス評伝	10 月	季刊『社会学』東京社会科学研究所
大衆化と大衆社会	10 月	講座社会学 第 7 卷 『大衆社会』東大出版会
ドイツにおける婦人の政治意識 (その一)	11 月	『東外大海外事情研究所資料』4号
福武直他編『社会学辞典』項目執筆	1958 (昭和33) 年 3 月	有斐閣
大社会と集団	3 月	講座社会学 第 2 卷 『集団と社会』東大出版会
現代社会学の潮流	7 月	講座社会学 第 9 卷 『社会学の歴史と方法』東大出版会
戦後のドイツ社会学—その実証的研究の諸傾向—	10 月	『東外大六〇周年記念論文集』
政治社会学序説	1959 (昭和34) 年 3 月	『社会学評論』第 9 卷第 4 号 (36)
社会変動	4 月	『基礎社会学』誠信書房
階級社会と社会変動	5 月	講座社会心理学『社会変動』中山書店
国家社会学について	6 月	新明博士還暦記念論文集『社会学の問題と方法』有斐閣

現代社会と政治的無関心 (一)		12月	『耕文』(東外大助手会論文集) 第9号
全体社会の秩序と変動	1960 (昭和35)	年6月	『基礎社会学(改訂版)』誠信書房
現代社会と政治的無関心 (二)		7月	『耕文』(東外大助手会論文集) 第10号
ドイツにおける婦人の政治意識 (その二)	1962 (昭和37)	年3月	『東外大海外事情研究所資料』
イデオロギー		5月	日本社会学会編『現代社会学入門』有斐閣
W・H・リールの市民社会論		9月	『社会学史研究』第2号, 日本社会学史学会
近代社会	1963 (昭和38)	年10月	『社会学』有信堂
日本における政治の社会的基底を廻って	1964 (昭和39)	年1月	『社会学評論』55号
権威について—特にマックス・ウェーバーの場合—		3月	東北社会学会紀要『社会学年報』1号
全体社会の概念		4月	『教養社会学』誠信書房
最近における化学工業災害の社会学的研究	1965 (昭和40)	年3月	『消防大学校学友会会報』26号
ドイツにおける社会学の現況	1967 (昭和42)	年7月	『社会学研究』第28号
階級概念について		11月	『東外大紀要』 <i>Area and Culture Studies</i> 第16号
ケーニッヒ	1972 (昭和47)	年4月	新明正道監修『現代社会学のエッセンス』ペリカン社
大学紛争と社会学		8月	『社会学評論』79号
現代青年の意識と行動		12月	『消防研修』自治庁消防大学校
ドイツ人のレジヤ	1973 (昭和48)	年6月	シリーズ「人間とレジヤ」第1巻 石川弘義編『レジヤの思想と行動』日本経済新聞社
地方政治と住民	1975 (昭和50)	年2月	樺俊雄教授古稀記念論文集『歴史社会学とその周辺』中央大学出版部
ドイツ社会学		4月	社会学講座 第18巻『歴史と課題』東大出版会

社会学の成立とその背景	10月	馬場明男博士古稀記念論文集 『社会学史』時潮社
大衆社会論	10月	『経済思想の事典』有斐閣
ドイツの市民生活	1976 (昭和51) 年10月	『消防研修』第25号, 自治庁 消防大学校
学寮問題に寄せて	1977 (昭和52) 年2月	『厚生補導』128号, 文部省学 生課
東ドイツ社会学の現状と問題点	1978 (昭和53) 年3月	『社会主義諸国とその国際環 境に関する研究』東外大
ナチス治下の社会学	9月	『学燈』75巻 第9号, 丸善
西独の大学における厚生補導の現況と問題 点	1979 (昭和54) 年10月	『厚生補導』160号, 文部省学 生課
社会の全体構造・近代社会・現代社会・社 会変動論	1980 (昭和55) 年4月	福武直編『社会学』有信堂
日本における政治社会学の展開	4月	『東外大八〇周年記念論文 集』
西独社会学の戦後史	5月	『地域研究—その方法論と事 例研究』東外大
都市化と市民意識	10月	『消防研修』第28号, 自治庁 消防大学校
O.A.G.Reihe Japan modern Bd.1, Die Frau	10月	Hrg.G.Hieschler, Erich Schmidt Verlag.
現代社会をどう捉えるか	11月	『消防研修』第29号, 自治庁 消防大学校
Internationales Soziologenlexikon I. II. (日本の部執筆、日本の社会学者120名につ いて尾高邦雄、森岡清美両氏と共同執筆)	11月	Hrg.W.Bernsdorf, Fer- dinand Enke., Verlag. Stutt- gart
現代人の意識と行動	1981 (昭和56) 年11月	『消防研修』第31号, 自治庁 消防大学校
ナチス指導者国家の構造と党機能	1982 (昭和57) 年1月	浅沼・河原・柴田編『比較ファ シズム研究』成文堂
学位と外国語の問題 Trends and Perspectives of Sociology in Japan	1984 (昭和59) 年	『大学基準協会会報』, 第53号 UPS Working paper series.
新明社会学と政治		『社会学研究』新明正道先生 追悼号

アメリカにおける政治社会学の展開とその 問題点			『社会学研究』50号
国際化時代と留学生—その現状と課題—(1)	1988 (昭和63) 年 3 月		『国際経済研究』3月号, 国 際経済研究センター
”	(2)	4 月	『国際経済研究』4月号, 国 際経済研究センター
ナチス治下のドイツ社会学		3 月	『社会学研究紀要』第8号, 明星大学人文学部社会学科
西独大学の社会学研究所巡り (その1)		3 月	『社会学研究紀要』第8号, 明星大学人文学部社会学科
県会議員レベルの投票行動	1989 (平成元) 年 3 月		『社会学研究紀要』第9号, 明星大学人文学部社会学科
西独大学の社会学研究所巡り (その2)		3 月	『社会学研究紀要』第9号, 明星大学人文学部社会学科
H・フライヤー「産業時代のもとでの社会的 全体と個人の自由」(共訳)		3 月	『社会学研究紀要』第9号, 明星大学人文学部社会学科
西独大学の社会学研究所巡り (その3)	1990 (平成2) 年 3 月		『社会学研究紀要』第10号, 明星大学人文学部社会学科
東西ドイツの統一をめぐる	1991 (平成3) 年 3 月		『国際経済研究』3月号, 国 際経済研究センター
いまなぜテンニエスカ	1991 (平成3) 年		『社会学論叢』112号, 日大社 会学会
独大学の社会学研究所巡り (その4)		3 月	『社会学研究紀要』第11号, 明星大学人文学部社会学科
普遍主義か特殊主義か	1992 (平成4) 年12月		『国際経済研究』12月号, 国 際経済研究センター
成熟社会論	1993 (平成5) 年1月		『国際経済研究』1月号, 国 際経済研究センター
ナチズム初期とドイツ社会学	1994 (平成6) 年3月		『社会学研究紀要』第14号, 明星大学人文学部社会学科
政治不信から政治的無関心へ	1995 (平成7) 年1月		『国際経済研究』12月1月合 併号, 国際経済研究センター
W・H・Riehlの『市民社会論』—Riehl研究 の一駒—		3 月	『社会学研究紀要』第15号, 明星大学人文学部社会学科

注：著書・論文中「』」を付したものは単行本を表す。